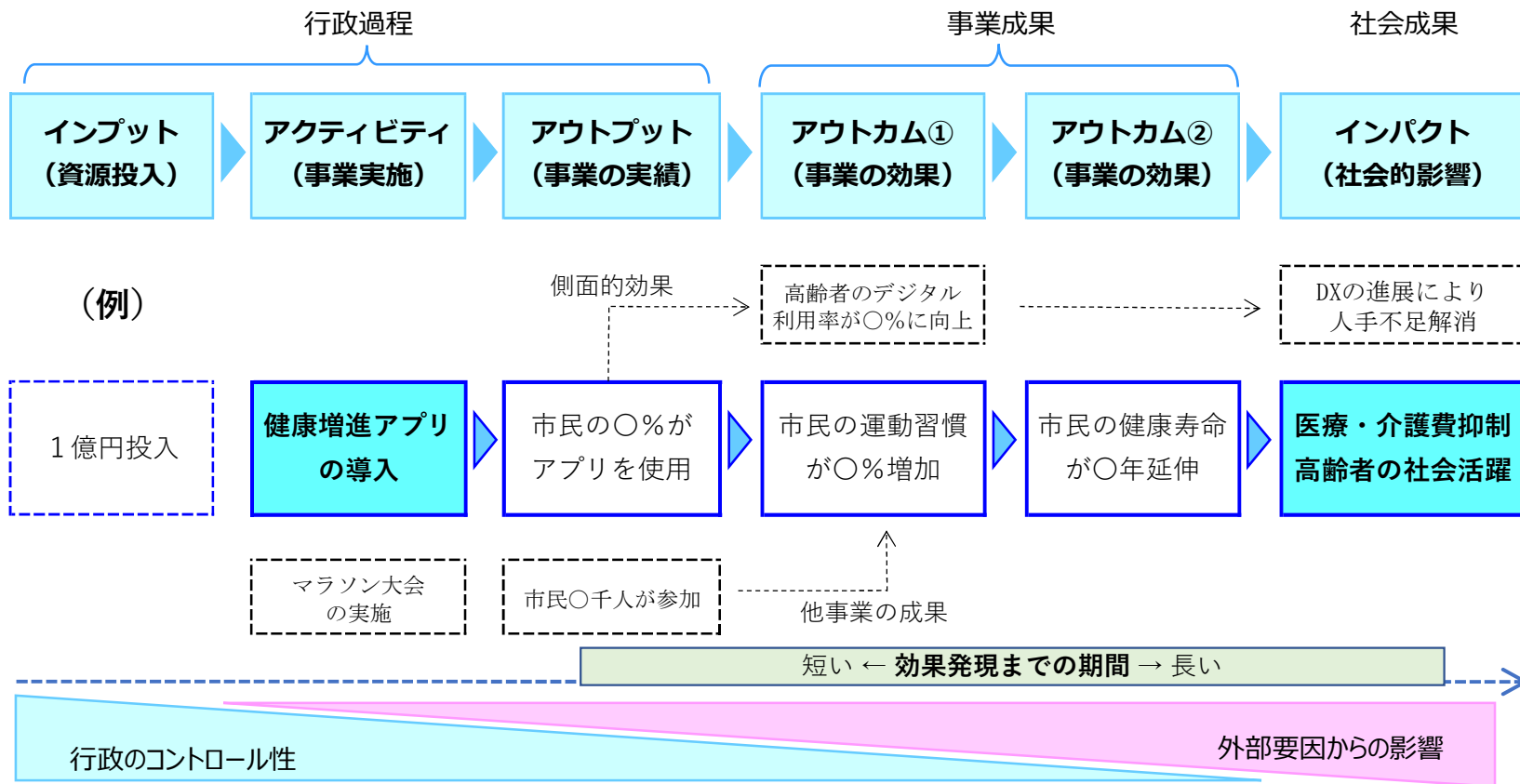


指標活用に係る課題意識

(参考) ロジックモデルによる政策形成

ロジックモデル：施策が目的を達成するまでの論理的な因果関係を明示したもの

一般的に



社会全体 (個々の人の総体) としてのウェルビーイングの向上

主観指標を意識することで最終目標を目指した施策立案に変化
↓ (しかし)

主観指標の変動には、
・各種要因がある
・時間がかかる

↓ (それなら)
向上を企図した主観指標への因果関係が大きく、短いスパンで効果が現れる客観指標 (または別の主観指標) を追いかける必要

↓ (ただし)
その指標は、
・単一的ではなく、
・複層的に存在しうる
↓ (なかでも)

行政のコントロール性が高いものを丁寧に選ぶ必要

- 【作成のメリット】
- ・事業の「目的と手段」を可視化し、目標を明確に共有できる
 - ・事業効果や有効性、影響が確認できる
 - ・他の事業との関連性を整理できる など

佐藤徹(2021)『エビデンスに基づく自治体政策入門 ロジックモデルの作り方・活かし方』(公職研)より

施策設計図

・施策の論理的な構造を明示する「ロジックモデル」をベースに、ウェルビーイングの要素を取り入れたもの。
 ① 県民のウェルビーイング向上をゴールとして常に意識
 ② 施策及びその成果がどう課題解決やウェルビーイング向上に繋がるのか、その流れをわかりやすく体系的に示す

ウェルビーイング指標項目

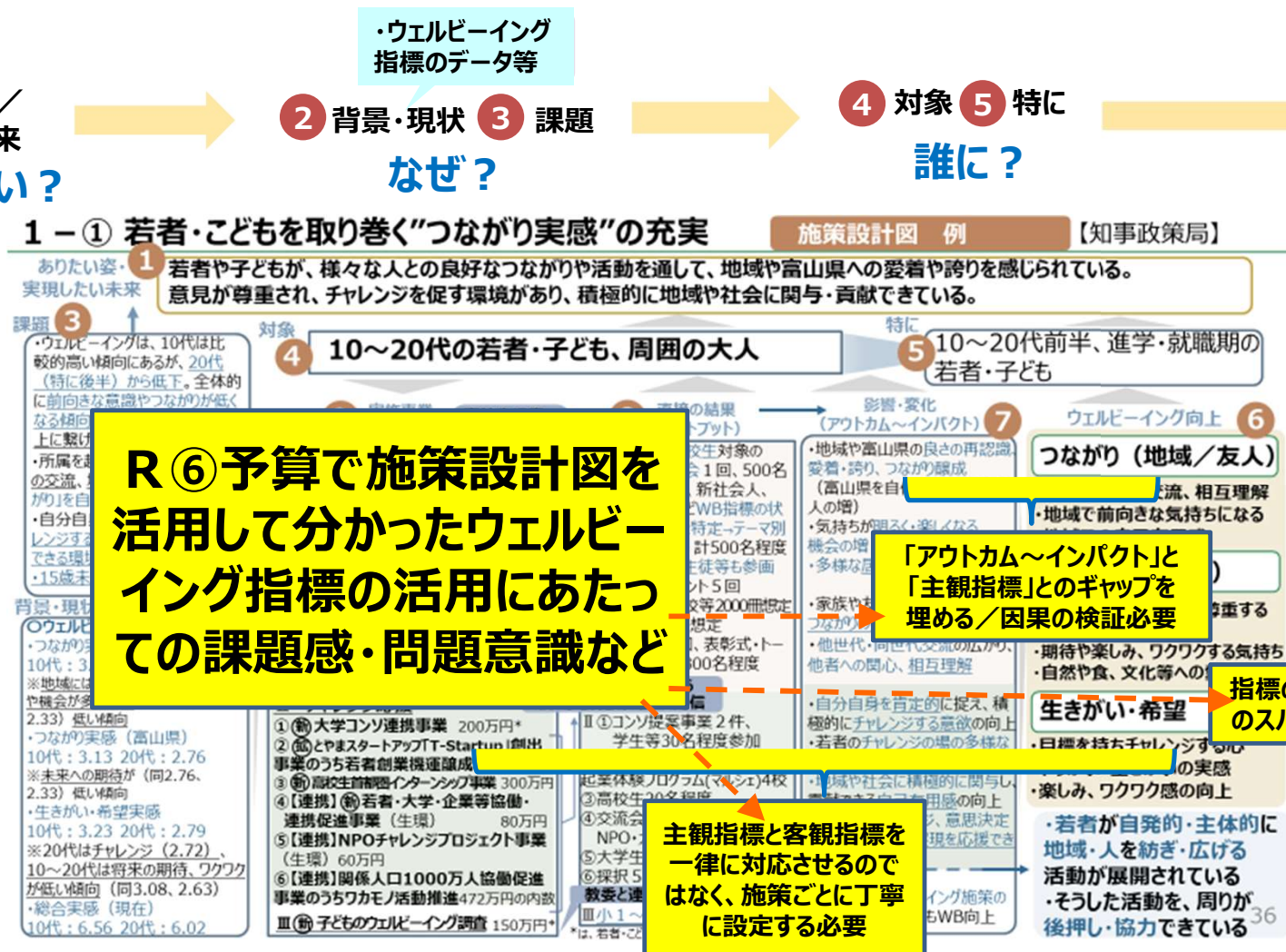
6 ウェルビーイング向上
 どのようなウェルビーイング?

指標の変化をどれくらい
 のスパンで見ているのか

7 影響・変化 (アウトカム～インパクト)
 そのために、どうい
 う影響・変化が必要?

8 直接の結果 (アウトプット)
 そのために、どんな
 活動結果を生み出す?

9 実施事業 (インプット)
 そのために、どのくらい資源
 (予算等) を使って、何を
 する?



**R ⑥ 予算で施策設計図を
 活用して分かったウェルビー
 イング指標の活用にあつた
 ての課題感・問題意識など**

「アウトカム～インパクト」と
 「主観指標」とのギャップを
 埋める／因果の検証必要

主観指標と客観指標を
 一律に対応させるので
 はなく、施策ごとに丁寧
 に設定する必要

1 ありたい姿/
 実現したい未来
 どうありたい?

2 背景・現状 3 課題
 なぜ?

4 対象 5 特に
 誰に?

仮説・気づき

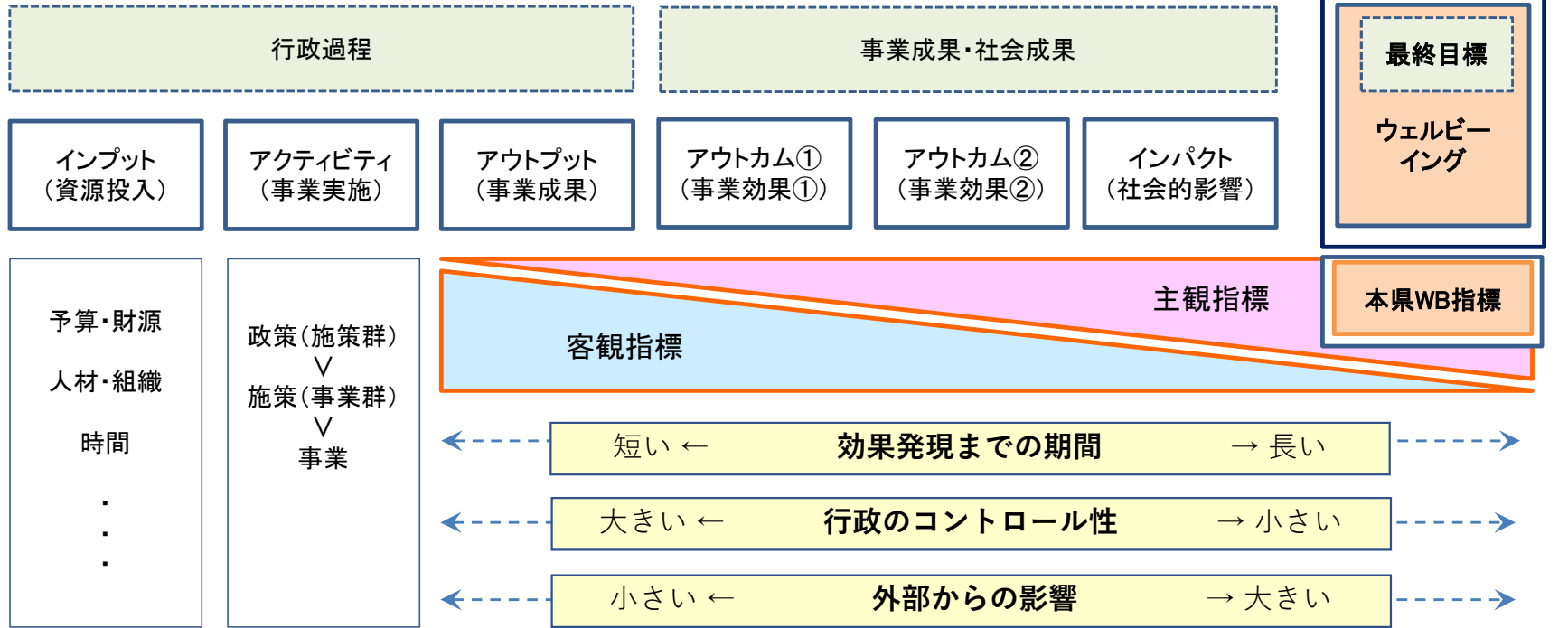
・ウェルビーイング
 指標のデータ
 ・各種統計データ
 等の状況、傾向

目指す イメージ

- ①本県では主観指標と施策領域を限定せず幅広く捉えることができる形としている（一つの主観指標に効く施策領域は複数存在。逆のケースもあり。）
- ②その意味でも、客観指標は主観指標と対をなすものと位置付けず、
- ③目的とすべき領域を見定めたうえで適切（親和性が高い）と思われる客観的指標を、施策テーマごとに柔軟に置く（施策設計図などでフォローすることとし、アジャイル型で柔軟に対応できる方法

ロジックモデルA

EBPMサイクル（短期的～中長期的）



WB指標と他指標とをつなぐ必要

最終目標を常に意識する必要

総合的に効果検証 (県民全体のWB向上につながっているか)

